第 39 回日本神経救急学会学術集会 報告書

日本医科大学大学院 救急医学分野　教授

横堀 將司

2025 年 7 月 6 日（日)、第 39 回日本神経救急学会学術集会を日本医科大学大学院棟にて開催いたしました。本学会は、日本の神経救急の進歩と普及に貢献することを目的として、主に神経疾患の救急診療に興味のある若手医師が症例を持ちよった勉強会として 1992 年よりスタートし、1996 年の第 10 回以降、年 1 回の開催となり現在に至っています。神経系の救急疾患は、原疾患や病像が極めて多彩であります。本学会会員の構成が救急医、脳神経外科医、神経内科医、整形外科医、小児科医、集中治療医、基礎研究者など、多くの診療科から参画しており、本学会は神経救急における学際的な趣を持つ学術集会であります。

神経疾患の救急医療を取り巻く環境は大きく変化しています。医学は年々、その専門性が高まり、神経疾患領域もさらに細分化されつつあります。循環器・脳卒中基本法の制定、救急救命士法の改正、そして医師の働き方改革への対応も相まって、急性期医療を取り巻く環境も多様化・複雑化しています。私たちはこれらの変化を前向きに、そしてよりシンプルに考え、本会のテーマを【Challenge to the border：領域を超えた挑戦へ】と定めました。

当日は 160 名を超える多くの参加者にお越しいただき、教育講演、特別講演、シンポジウムなどを通じて、活発な意見交換が行われました。特に、特別講演では、本学脳神経外科大学院教授の村井保夫先生より「脳神経救急領域における外科的脳血行再建術」を、本学脳神経内科学前教授の木村和美先生より「SKIP 研究から変わった rt-PA 静注療法と血栓回収療法」をテーマにご講演を賜りました。そのほかにも脳卒中急性期治療、免疫性神経疾患、自律神経障害、神経蘇生学など、多岐にわたるテーマが取り上げられ、基礎から臨床まで幅広い知見が共有されました。また若手医師による発表も多く、将来の神経救急を担う人材の成長を実感する機会ともなりました。

本会を通じて、神経救急の分野において領域間の連携の重要性を感じた良い機会となりました。今後もこのような学術的交流を通じて、さらに救急医療の質の向上に貢献してまいりたいと思います。

最後に、本学術集会開催にあたりご支援をいただいた日本医科大学医師会の関係各位、そしてご参加いただいたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

第39回
日本神経救急学会
Challenge to the border
領域を超えた挑戦へ